

会議の名称	議員定数・報酬等検討 特別委員会 報酬分科会	開催月日・令和6年10月21日 開会時間・午前・午後10時58分 閉会時間・午前・午後11時25分
出席者	河崎 周平 南谷 清司 堀 隆和 藤川 貴雄 花村 隆 近藤 伸二	
欠席者		
オブザーバー	議長 野口 佳宏 副議長 原 一郎	
傍聴者		
説明のために出席した者	藤井議会事務局長、浅井議会総務課長、堀議会総務課長補佐、森議会総務課主任	
協議事項	・議員報酬について	

【開会＝午前 10 時 58 分】

近藤座長

ただいまから報酬分科会を開会いたします。本日の協議事項は羽島市の議員報酬についてを議題といたします。前回の分科会で協議事項になりましたアンケート調査の実施について、ご意見等がありましたら。先ほどお話を聞いたんですが、他の分科会では現地調査をするご意見も出たようですので、それについても。

花村委員

他の分科会ではアンケート調査をする方向もあるそうですが、議員報酬のアンケートについての意見を申し上げますと、結果が分かっているというか、大衆目線からは、議員はもらいすぎとかボランティアでいいという意見を多数聞きますので、アンケートはやる必要はないと思います。

藤川委員

アンケートでどういうことを聞くかになるんですが、上げたほうがいい、下げたほうがいい、据え置きと、色々な聞き方がありますが、それを聞いて、こういう回答があったから私はこうしますとか、アンケートを聞いた結果、何かこうできるという判断材料にはなりにくいと思いますので、報酬のあり方を検討していくに当たってそぐわないのではないかと思います。報酬審議会がありますので、そちらに諮問する形が妥当ではないかと思います。

調査についても、そこに行っても何が分かるのかということもありますので、羽島市議会として、羽島市の報酬審議会として、どのような結論を出すのかということところで、羽島市の中で完結できればいいのではと思います。

堀委員

アンケートをとることは無意味かなと。大体の流れが、議員は報酬が多いんじゃないかという話です。委員会を作るなら、市民の代表ではなく、大学の教授とか、研究をしている方を入れ込んだ委員会にしないと、素人が多いと市民の声と同じというような形になっていってしまうんじゃないかと思います。

それで現在の報酬ですが 20 代の人には一般の会社に勤めている人よりも多いかと思います。30 代後半から 40、50 歳手前の人には少ないかなと思います。高齢者と言われる 65 歳過ぎの人には年金等もありますので多いかと。

それで、どの年代の人や意見が羽島市議会として少ないのかということを考えて、そのことについては我々で深められると思いますので、そういった形で委員会を進めてい

南谷清司委員	<p>けばいいと思います。</p> <p>アンケートについてということですが、前回お話をさせてもらった通りで何も変わってないので同じことを話しますが、他の分科会でアンケートされるならば、特別委員会として全てに関してアンケートを実施するべきだろうと。報酬分科会だけである必要はないと思います。報酬を上げるか下げるかと聞けば、下げたほうがいいという話しか出てこないんですけど、報酬についてどのように考えるかという関連的なアンケートをすればそれなりの成果が得られるのではと考えています。</p>
河崎委員	<p>アンケートについては単独でやるのではなくて、他の分科会と合わせて、他の分科会でどういうことを聞かれるかも含めて考えなくてはいけないのかなと。そもそも前提で議員定数の話から始まっている分科会になると思うので、議員定数削減が1人なのか2人なのか削減しないのかというところを踏まえてアンケートの内容を考えるべきかなと思っております。</p> <p>あと先ほど堀委員が言われた通り、若者というか20代に関しては、待遇的に金額はいいのかなという話もあったんですけど、30、40代や子育て世帯になると単価的には大変なところがあるのかなということで、ちょうど今その世代に私が入ってしまうので、私が言うのもあれなんですけれども、逆に議員全体としての支払総額は同じだけれども、例えば年代によってその支払える報酬が変動するやり方を考えると面白いのかなと思いました。</p>
近藤座長	<p>議長、副議長、個人的な意見でもよいので。</p>
野口議長	<p>定数分科会では、アンケートに関しては委員会全体でやっていくスタンスということで、分科会としてどうしていくか結論を出すのは年度末ということになりました。定数分科会は現地調査を行う形になりました。</p> <p>個人的な意見ですが、報酬は上げるべきだと思います。</p>
原副議長	<p>子育て世代にとっては議員には退職金とか年金がほとんどないというデメリットもありまして、今後若い人たちが議員になりたいと思える形にすることも考えるべきだと思っていて、慎重に進めていただければと思います。</p>

議会総務課長	今調べてみたんですけど、先ほど河崎委員が言われた議員報酬の年代別のことですけれども、長野県の中川村がやっています、年代に応じて加算していくと。
河崎委員	長野県の中川村は私も調べさせていただいて、多分、手当のような形でして、幅広く考えていくといいと思います。
南谷清司委員	議員報酬は報酬なので、職に対する対価であって生活給ではないんですよ、基本的には。手当という発想が、児童手当とかそういう発想だろうと思うんですけど、それが果たして法的に許されるか専門家の意見を仰がないと、法的にはクエスチョンマークがつきかねるところです。私自身は児童手当をつけたほうが単純明快で世の中の理解を得られるからそうしたほうがいいとは思いますが、法的な調整なり研究が必要ではないかなと思います。
近藤座長	その他。 (意見なし)
近藤座長	皆様のご意見をお聞きしてみますと、アンケートはやるなら他の分科会と一緒にやるというのが大勢だと思うんですけど、この分科会としてはやらないほうがいいというような意見ですけれども、全体でやればやるという形で、他の分科会と調整するというところでよろしいですか。 (異議なし)
近藤座長	それでは今後について。他の分科会では他市町の意見を聞くということで、この分科会の委員からは市民に意見を聞くんじゃなくて専門家の意見をと。過去に議員研修会で大学教授の話聞いたこともありますけれども、お金がかからないのであれば YouTube で見るとか、大学講師の話をおの場で聞くとか、いろんな点があると思いますけれども、現地調査を含めて勉強会をする方向で進めさせてもらってもよろしいですか。
藤川委員	勉強することは大事なことでいいとして、何を題材にするのか、どのような教材で学ぶのかで大きく違いが出ると思います。例えば報酬は上げる派の大学教授の話聞けばそういう話になりますし、下げる派の教授の話聞けば

	<p>ばそういうふうになるというところで、どこから学ぶかというのは大事なポイントになろうかと思います。</p> <p>報酬の上げ下げだけではなくて、例えば長野県の例もありましたけど、この町ではこういうやり方をしているとか海外ではこういう考え方でいるとか、参考となる事例を学ぶという意味で勉強会を進めていくのがいいのではないかと考えますので、何がいいとか何が悪いとかを学ぶのではなくて、やり方や考え方を勉強すると。先ほど法制的に大丈夫なのかというかご意見もありましたけど、そういったことを学ぶ場になればと思います。</p>
花村委員	<p>そういう立場から言うと、この間のハラスメントの勉強会で来てもらった先生は、報酬や定数に熟知しておられるんじゃないかと、参考意見として申し上げます。</p>
近藤座長	<p>講師をお呼びする予算はないですね。</p>
議会事務局長	<p>ないです。</p>
近藤座長	<p>アンケートをやらなければ、どういう形か分かりませんが参考意見を聞く方向だと思いますけど、講師を呼ぶと高いし、書籍をまとめてもらって事務局に説明していただけるのか、現地調査をするのかですね。</p> <p>上げるか下げるかそのままか、結論を出さずに参考の話をお願いしますか。委員が多少自己負担して。次回までに長野県の事例を調査して報告してもらいますか。</p> <p>(「委員で事例を調べる」と呼ぶものあり)</p>
近藤座長	<p>まず委員が調べて、事務局にその事例の詳細を調べてもらうということですか。次回までに委員が事例を調べて、事務局に連絡して、事務局でさらに調べていただいて、次の分科会で報告していただくことは難しいですか。</p> <p>(「委員が報告する形もあります」と呼ぶものあり)</p>
近藤座長	<p>それでは、それぞれの委員で次回までに文献や事例を調べて、資料を提出し、説明するという方向性で進めることでよろしいですか。</p> <p>(異議なし)</p>

近藤座長	<p>次回開催日の1週間ほど前に事務局へ資料を提出いただきたいと思います。</p> <p>その他、何か協議することはございますか。</p> <p>(意見なし)</p>
近藤座長	<p>次回の開催日は11月12日午前9時でいいですか。</p> <p>(異議なし)</p>
近藤座長	<p>資料は原則11月5日までに事務局へ提示していただくことでよろしいですか。</p> <p>(異議なし)</p>
近藤座長	<p>それでは報酬分科会を終了いたします。大変ご苦労さまでした。</p> <p style="text-align: right;">【閉会＝午前11時25分】</p>